

「北の宿り木」 –Bar&Cafe LANP における相互行為–

春日井天那

キーワード：社会的相互作用、出会い、サードプレイス、場所、地域

要旨

本稿の目的は、札幌市北 18 条で営業される学生経営バー「Bar&Cafe LANP」におけるコミュニケーションのあり方や店そのものが地域とそこに住む人々に対して持つ役割について、フィールドワークを通じて明らかにすることである。

第 1 章では、本稿の研究目的と研究に至った背景を述べる。

第 2 章の事前調査では、「Bar&Cafe LANP」の概要について、その取り組みや歴史、経営方法に注目して述べる。

第 3 章の先行研究のレビューでは、ゴッフマンの論をもとに相互行為に関する人類学・社会学的研究を参照し、既存の概念の整理を試みる。また、Bar&Cafe LANP を「サードプレイス」という概念から眺め、それを補強する形で「場所論」のあり方も概観しこれらの先行研究の中で本研究の立ち位置とオリジナリティを示す。

第 4 章では、本研究を行った際の研究手法や調査概要、研究にあたっての留意点について述べる。

第 5 章から第 7 章にかけては、実際に「Bar&Cafe LANP」におけるフィールドワークを通じて浮かび上がってきた具体的な事例から、「Bar&Cafe LANP」における人々の出会いの特徴や、場所の性質について述べ、それぞれの章ごとに分析を加える。第 5 章では「Bar&Cafe LANP」にはどのような人がどのような目的で出入りするのか観察し、その上で「常連」という特別な存在について触れる。第 6 章では出入りする人々が「Bar&Cafe LANP」でどのようなプロセスやパターンで出会うのか分析し、出会いの場としての「サードプレイス」にも言及する。そして第 7 章では、「場所」の観点から「Bar&Cafe LANP」を観察し、店内における場所＝配置と、外部の環境とのかかわりに関する Bar&Cafe LANP の場所に注目し、コミュニケーション、地域との関連を述べる。第 8 章では結論として「Bar&Cafe LANP」が北大周辺に住む学生や地域にとってどのような役割を持っているのか、また現代日本にとって必要とされる出会いや場所のあり方とはどのようなものかという設問に答えを出す。Bar&Cafe LANP は、北大エリ

アの主に学生にとって、出会いの場として機能していたことがわかった。Bar&Cafe LANP は見知らぬ他者との交流を好み、そのための場所を求める人間にとってはサードプレイスとしての可能性を持つが、本稿ではサードプレイスをより主観的に捉えられるものとして修正し直すことを試みた。この試みによって、ある場所がサードプレイスあるいは居場所と呼ばれるような親密な場所となるためには、さまざまな課題を乗り越える必要が出てきた。だが、これらの課題を乗り越え個人にとって代え難い場所を持ち、そこで出会う他者たちと豊かな関係を築くことの意味は現代にあってこそあるのではないかという点について考察を深めたい。